

1 学校教育目標

伸びる子 強い子 やさしい子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	児童が安心して学び、安全に楽しく生活できる学校 バランスの良い「知・徳・体」を育むことができる学校 地域と協働し、保護者や地域の期待に応え、信頼される開かれた学校
○児童・生徒像	自分から進んで、より高い所を目指して学び生活する子ども 健康で強い意志をもって、正しいことをする子ども 豊かな心で思いやりをもち、誰とでも仲良くする子ども
○教師像	使命感・展望・情熱をもち、指導・校務・研究にバランスのよい力量を身に付けた教師 児童が「できた」「分かった」「もっとやりたい」と実感できる、主体的な学びを引き出す授業ができる教師 児童を深く理解して共感的な生活指導に努め、「いじめを絶対に許さない学級づくり」が果たせる教師 組織人としての責任感、協調性を有し、高次元の和で結束する教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

- ・明るく素直で思いやりと優しさをもつ児童が多い。ICT機器を活用する力が高い子供たちである。
- ・教職員は、教育熱心で児童への愛情が深い若手教員とベテランのバランスがよい。中堅教員はミドルリーダーとしての力量がある。また、情報教育拠点校・Google for School 事例校としてICTを活用したよく分かる授業を行う力と担当校務の遂行力を備えている。全教職員が「西新井小を持続可能な学校にする」という理念のもと一致団結している。
- ・保護者および地域は学校に協力的であり、新型コロナウイルス感染症対策も徹底してくれている。地域は昔からの協力体制が整っており町会・自治会の結束力も高い。地域で子供たちを見守る風土もあり様々なボランティア活動を通して学校を支えてくれている。

【前年度の成果と課題】

- 基礎学力の定着について目標通過率（80%）は達成できたが、目標正答率（80%）に届いていないので、授業改善・補充指導が必要である。
- 高学年において教科担任制による授業を行い、導入による成果と課題が明らかになった。今後は、指導内容や時間等を工夫しながら分かる授業を実現させ、児童の学力向上につなげていきたい。
- 情報教育拠点校として、授業研究・公開授業・テンプレート作成等を行い、教育のレベルアップを図ると共に区内小学校への先進校としての責務を果たすことができた。今後は、児童の情報活用能力の向上、AIドリルや児童用デジタル教科書の活用が課題である。
- 算数においても言語能力不足が見られる。さらに言語活動を活発にして、言葉の力やコミュニケーション力を高めていきたい。

4 重点的な取組事項						
	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	安全で安心できる学校づくり	○	○	○	○	○
3	開かれた学校づくりの推進	○	○	○	○	○
4						

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎学力の定着		80%以上		国語 83.0%、算数 81.1%		2教科とも基準を達成した。学習の定着状況と具体的な取組は6(1)を参照。		◎	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	基礎学力 の定着	全児童 国語 算数 補充：低 正答率児	毎週 夏季 通年	パワーアップタイム 担任による朝学習 放課後学習教室 全教員による補充指導 サマースクール 全教員による集中指導 AIドリル活用：朝・放課後等 家庭学習でも	4月、2月に 過去の区学力 調査問題（過 去問）実施	・国語の正答率 80%以上 ・算数の正答率 80%以上	(4月) ・国78.3%・算75.2% (R6年2月通過率) ・国84.5%・算82.7% (R6年2月正答率) ・国77.0%・算74.4%	・4月の正答率は区 平均をやや下回る ・昨年度との比較で は、国語が5.2%上 昇し算数は1.2%(6 年6.2%)低下した。 ・各学年の課題は、 6(1)参照。	○
2 継続	高学年の 教科担任 制の実施	高学年 国・社・ 体・外・ 家・総合 等	5月～ 週6回	3人の担任が担当教科を 決めて3学級で授業する。 ・各学年で教科を選ぶ ・各教科2時間×3学級	・進捗状況の 確認(毎週)	・各教科標準時 数の80% (国語以外)	5年：英・家・総合 6年：英・家・総合 ・行事や校外学習以 外は確実に実施。	・授業力向上の実感 ・教材準備時間短縮 ・教員の負担軽減 ・児童の満足度高い ・課題は時間割変更	◎

3 継続	授業観察 OJT	全教員	概ね、 6月 10月 2月	管理職による定期授業観察 ・事前指導、OJTペアによる授業観察・事後指導 ・全29項目・授業の型を身に付けさせる。 ・授業の基礎・基本「西新井小スタンダード」「足立スタンダード」の修得 ・項目ごとに評価、「授業力カルテ」として成長点や課題を明確にする。	・3半期ごとの授業カルテによる確認 ・カルテによる達成度(数値)による測定	・年間各3回完全実施 ・ことばの力を高める指導の工夫 ・カルテによる達成度平均75点以上	・定期授業観察は計画通りに実施 ・OJTペアによる観察教え合い実施 ・ことばの力 1年:デジタルMIM 2年:音読 3年:俳句 4年:落語 5年:ディベート 6年:意見文 ・カルテ平均77.2	・経験年数と共に各項目の得点が高くなる傾向はある。 ・新しい指導スタイルや学習スタイルへの転換を図っているため、これからも定期的な観察や自己評価により自己の修正点を認識することは重要	○
4 継続	若手教員 育成研修会	10年目以下の若手 教員	特設時間、諸会 議、打ち 合わせ	・教職の基礎・基本「西新井小スタンダード」教科ごとの授業力の基礎・基本「足立スタンダード」、危機管理・ICT機器活用等、知識・技能の修得	・研修会の開催回数	・年間50回以上	・1月末までに、66回実施済	・いじめ重大事案を受けての再確認 ・学習規律や生活指導、安定した学級経営のための計画的な内容 ・新規アレルギー	◎
5 新規	言語能力 の向上	全児童	・年間 ・専門家 活用	・「校内俳句ウイーク」年2回実施。応募と奨励。 ・劇団員による音読表現。心情理解。低学年。 ・外部講師による俳句指導と落語授業。国語への興味関心を高める(中学年) ・読書感想文指導(高学年)	・応募作品数 ・出前授業の開催回数 ・児童の意欲	・前年度以上の応募数 ・3項目4回以上 ・意欲向上	・俳句ウイーク2回(校長賞・特別賞) ・劇団員による音読表現(2年) ・俳句指導(3年) ・落語授業(4年) ・書評・作文指導(5・6年)	・全校共通的な取り組みと各学年の学習内容に合った内容があり、各学年が工夫している ・昨年度よりも国語の正答率が高くなった理由の一つか	○
6 継続	特色① ICT活用 (区情報 教育研究 拠点校)	教員 授業全般	小中連 携、区内 公開、校 内研究	・ICT機器ならではの授業づくり ・遠隔地等との交流授業 ・テンプレート開発 ・プログラミング的思考	・研究会の開催実績 ・授業公開	・小中連携2回 ・校内研究4回(区公開含む) ○合計6回	・小中連携2回 ・リテイングDX公開含め研究授業4回 ・ICTを活用した主体的な学びのスタイルを模索	・積極的にICTを活用している。今後は、学習スタイルの転換に焦点を当てて研究を進展させていく	◎

7 継続	特色② 防災教育	全児童	総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> 防災巻授業を活用した安全教育の推進 地域の避難所運営訓練とのコラボ学習実施 	<ul style="list-style-type: none"> 防災巻授業 児童が避難所運営訓練に参加 	<ul style="list-style-type: none"> 全学年で防災巻授業の実施 訓練参加 	<ul style="list-style-type: none"> 全学年で防災巻授業、マタイム活用 5年生が地域の訓練に参加 	<ul style="list-style-type: none"> 5年生は「アースイントイレ」の使い方など発災時に役立つことを学んだ 	◎
8 継続	特色③ プレゼンテーション能力育成	全児童 *コミュニケーション能力育成	各教科 校外学習	<ul style="list-style-type: none"> 高学年児童によるTGGでの交流体験学習の実施 プレゼンテーションの指導実践研究(全学年) タイピングスキル向上 	<ul style="list-style-type: none"> 交流体験学習実施 研究授業 キーボー島 	<ul style="list-style-type: none"> TGG 6年参加 学級賞 学校賞 	<ul style="list-style-type: none"> 6年生 TGG 参加 学習発表会でプレゼン発表(246年) 5年生「足立 ICT マスター」に挑戦 	<ul style="list-style-type: none"> 調べる、発表する能力が高まった ICTスキルの高さを証明してもらえることが励みになっている 	◎

重点的な取組事項－2		安心できる学校づくり			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自らの安全が確保できる児童の育成と学校の安全確保		指導、訓練、研修会の完全実施	<ul style="list-style-type: none"> 安全指導、避難訓練、危機対応訓練等を計画を適宜修正しながら実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 状況や児童の実態に応じて指導内容を追加変更し、対応することができた 	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
いじめの防止・早期解消	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止基本方針に則った取組の完全実施 	<ul style="list-style-type: none"> 「いじめ」の適切な理解、報告・連絡・相談で情報共有 「いじめ」を見逃さない学校の体質づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 「いじめ」予防の研修をし、年3回意識調査を丁寧に分析した 重大事案が発生したが早期発見・解決につながる組織的な対応を行うことができた 	<ul style="list-style-type: none"> 重大事案について、区教委と連携して素早く対応し、その後の見守りも適切に行っている 	○
安全指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 全11回の安全指導、完全実施 避難訓練は多様な場面を想定し13回 	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画にある各月安全指導、避難訓練、安全教室の確実な指導と避難訓練実施方法の工夫改善 	<ul style="list-style-type: none"> 全11回の安全指導を完全実施 避難訓練は、集合体形の見直しを行い、短時間で避難が完了 毎回、真剣に訓練に取り組む姿が見られた 	<ul style="list-style-type: none"> 状況を自分で判断し適切な行動選択ができることに重点を置き、できていることを大いにほめて定着させている 	◎

児童の安全確保ができる教師	<ul style="list-style-type: none"> ・「危機管理研修会」年間10回実施 ・各月「安全点検」完全実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会と現場での経験を通して全教職員に、①全ての危機管理に当事者意識をもたせ、②安全確保を職務行動として示すことができる力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・警察と連携した不審者対応訓練をはじめ計画的な研修を行った ・他校で発生した危機の情報を周知し、自校で起きた場合の役割確認と当事者意識を高めた ・安全点検を毎月実施し、修繕が必要な箇所は即対応した 	<ul style="list-style-type: none"> ・対応マニュアルの更新と確認のため、修正したものを読み合わせした ・不審者対应用刺股の追加購入に伴い、マニュアルを修正した 	◎
---------------	--	---	--	--	---

重点的な取組事項－3		地域に開かれた学校づくり			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
開かれた学校づくりの推進		P T C A委員の教育活動への参画と協働授業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・茶道教室、花いっぱい運動等、以前のスタイルに戻して実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・対面給食再開が1月になり、交流給食はできなかった 	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
開かれた学校づくりの推進	P T C A委員の教育活動への参画と協働授業	開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生を対象とした茶道教室(フルバージョン)を実施 ・和服の着付け教室や図書ボランティアによる定期的な読み聞かせ等を再開 ・地域行事への参加を割り当て、一覧表に記録、積極的に参加止。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事への協力も、地域やP T A行事への教員参加も増えた ・中止していた活動の再開と、新たな連携について協議を重ねた 	◎

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点－1 学力向上アクションプランについて

- 【課題】・5年生算数は通過率が70%(昨年度72%)で、2科5学年の中で昨年度に引き続き一番低いが、正答率は70%(昨年度68%)に上がっている。ただし、正答率が一番低かったのは6年算数66%(通過率は79%、R4の6年90%)であり、昨年度との単純な比較は難しい状況である。4年のグラフも要注意。
- ・領域別の全国比は、2年の領域3が最も低い。特に面積が-8.9であり、形の特徴を捉えたり、形の構成について考えたりする力に課題がある。
- 【対策】・授業では、個人の問題解決の時間を十分に確保するとともに学び合いの時間を意図的に多くして、自分で間違いに気付くように促していく。
- ・補習学習では、面積に関する類題を中心として個別の躓きに依じた問題に計画的に取り組みさせる。また、AIドリルにより定着させながら自信をもたせる。
 - ・個別指導では、授業中の机間指導を徹底しつまずきの早期解消につなげる。また、単元テストや各調査の結果の分析を指導に生かしていく。

基礎学力の定着

- ・基礎学力（国語・算数）定着のための朝学習「パワーアップタイム」を計画的に行っている。また、PCアプリを使った学習活動が増えてきているので、タイピングスキル向上は不可欠であり「キーボー島」の取り組みも引き続き強化している。特に高学年は短時間で長文が入力できる必要がある。
- ・放課後学習教室（特に算数）では、AIドリル活用強化月間を設定したことは、児童の挑戦意欲を高めることにもつながった。
- ・「ことばの力の育成」に継続的に取り組み、教員の意識がますます向上している。児童の国語の正答率も昨年度よりも5.2%向上した。

授業力の向上（授業観察・若手研修・小中連携・校内研究）

- ・教員の基礎・基本についてまとめた「西新井小スタンダード」の継続活用により統一した指導を心がけている。次年度に向けて大きく改訂する予定。
- ・校内研修会は回数もさることながら、児童が安心して生活できるような環境調整や各種対策の内容が大切である。児童や教員の実態に応じて必要な内容を計画的に習得させるとともに、問題を発見した項目については全員での確認や再研修を迅速に行い、指導力向上に生かしている。
- ・第五中学校との小中連携研究会では、児童・生徒の主体的な学習を促したり自己有用感を高めたりする言葉かけを中心に授業改善に取り組んだ。また幼稚園・保育園との連携事業は、直接交流ができていた頃の内容に戻して、できる範囲で行った。（交流給食は無し）

特色ある学習活動の推進（ICT教育・防災教育・プレゼンテーション）

- ・ICT活用における区の先進校としての研究活動を継続し、新たに文部科学省「リーディングDX事業 連携協力校」の指定を受けた。全国各地の取り組みを参照・参観し、優れた実践を取り入れるとともに、オンライン交流・授業なども開拓した。台湾の小学校との交流もスタートした。
- ・全学年で防災巻授業・安全教育を継続している。5年生は地域の防災訓練に全員が参加し、屋上プールからアースイントイレに水を流す方法やAEDを使った心肺蘇生法等を体験した。発災時には、避難者ではなく支援者となれるように知識・技能を身に付けさせている。学習発表会で偶数学年プレゼン発表を行うことも継続し、各学年の発達段階に応じたテーマや発表方法で学習の成果を発表した。年々、高度な発表になってきている。

（2）保護者や地域へのメッセージ

いじめの防止

- ・WebQUTテストやいじめの聞き取り調査により、早期発見・早期解決に努めている。ヒヤリとする状況が起きても、適切な対応を組織的に行うことができた。集団生活において子供同士のトラブルは起きるが、重大ないじめに発展させない内に迅速に対応するようにこれからも努めていく。

安全指導の徹底

- ・基本的な感染症対策は常に必要である。換気やマスク着用・手洗いなど、自分で判断して正しく行動できるように指導している。
- ・1月途中から教室での対面給食を再開した。喫食時のマナーや食育を充実させるとともに、楽しく食事ができるように指導している。
- ・1月に能登半島で大地震が発生したことを受けて、自分にできることを考えたり、発災時に自分の身を守る行動ができるように指導した。

児童の安全が確保できる教師

- ・「危機管理研修会」を重ね、職員参集マニュアル等の修正・確認、避難所設営ができるようにした。訓練により必要な器具の不備を発見し対応した。

(3) その他（学校教育活動全般について）

今年度から文部科学省リーディングDX事業・連携協力校に指定され、ICTを活用した教育活動のさらなる充実を目指しています。その中で、与えられる学習を待つ子供ではなく、自ら学ぶ子供の育成について模索し始めました。ICTの活用を前提として、教師の指導スタイルも大きく変えていきたいと考えています。そのためには、保護者・地域の方等と連携した教育活動の充実も必要です。また、子供たちが安心して快適に学ぶことができる学校をつくるためにも、引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。